

圏域レベルのデータ集積・活用

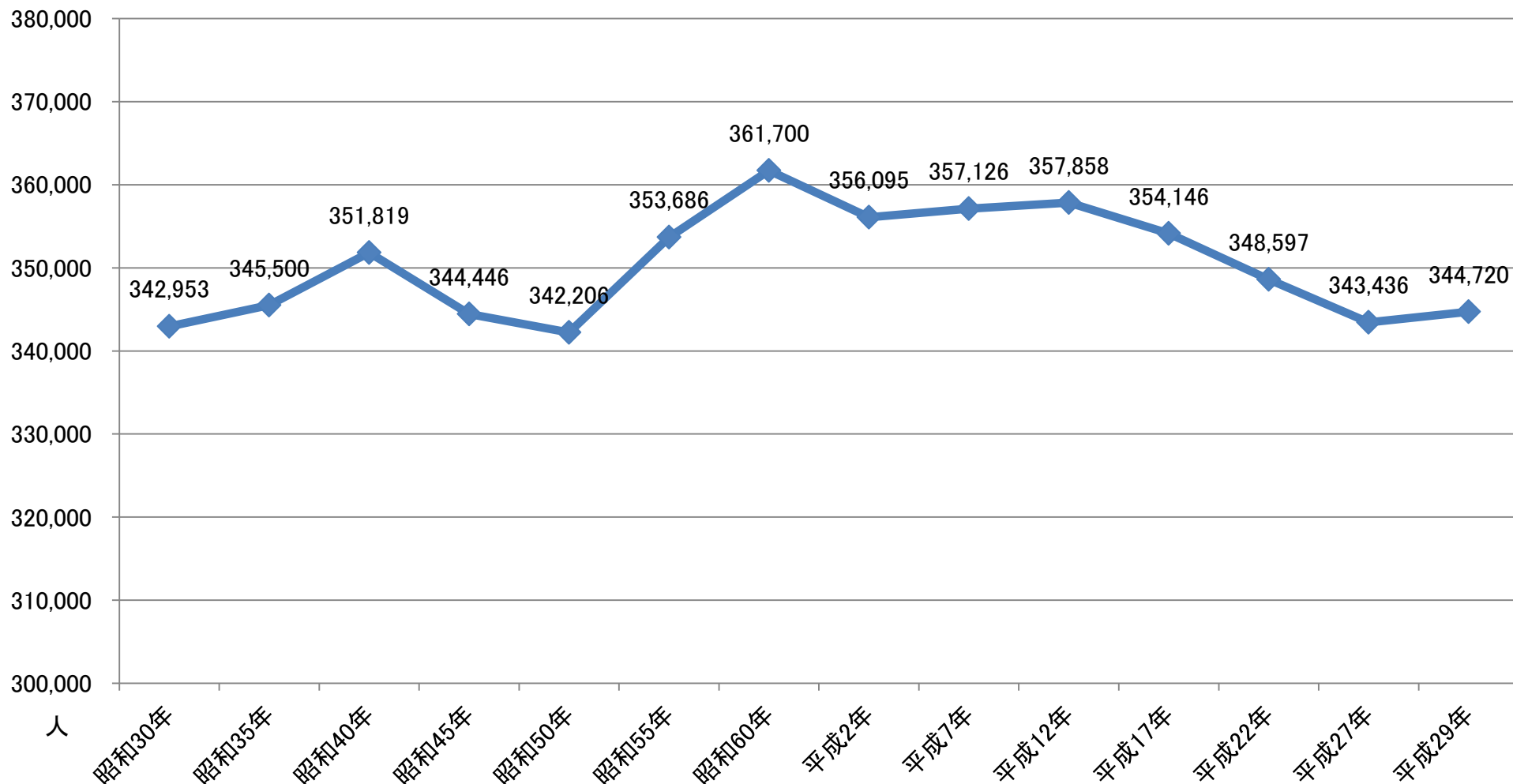
# 十勝管内の人口の推移

中間報告

平成30年8月23日  
十勝定住自立圏幹事会事務局

# 1) 十勝管内の総人口の推移

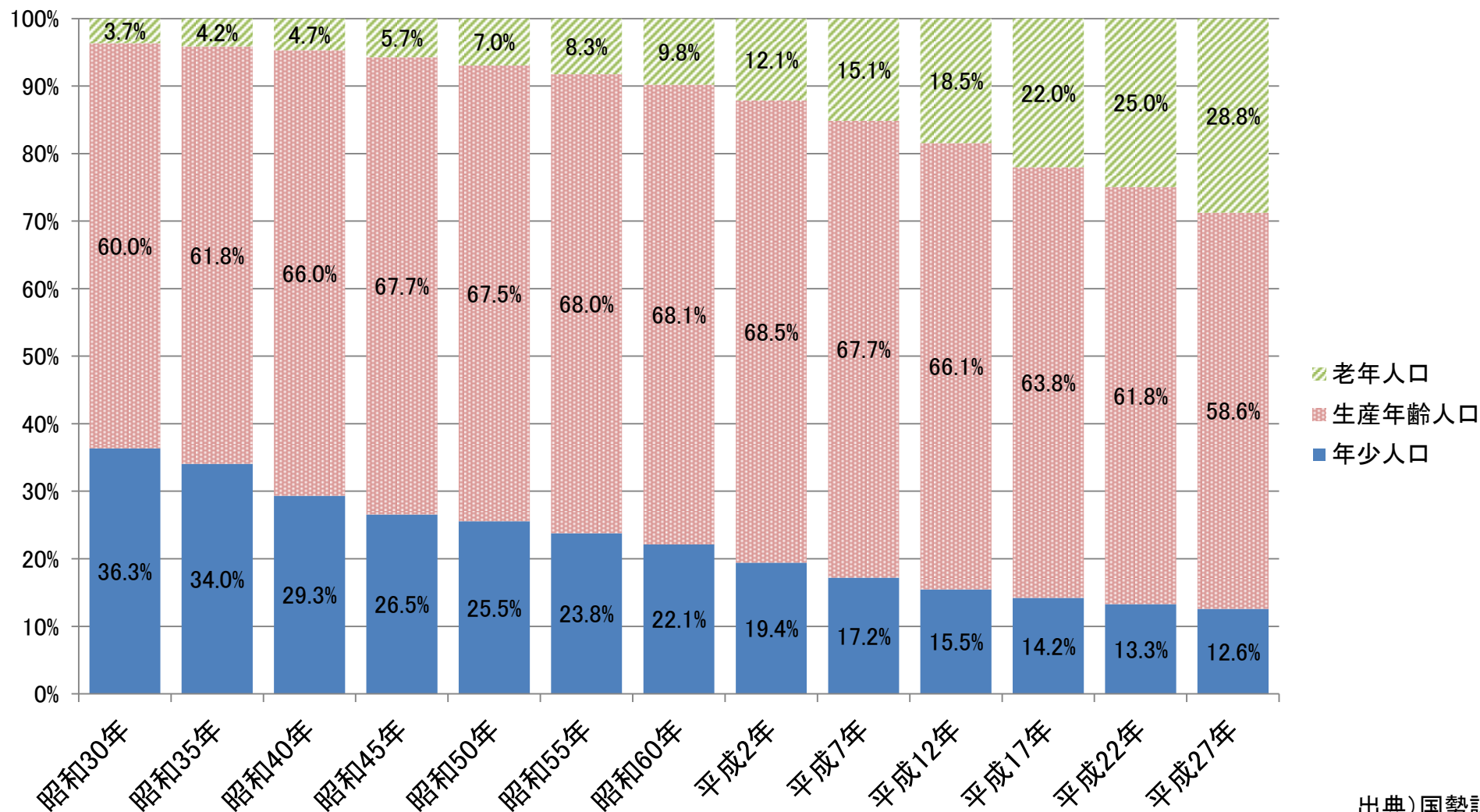
管内の総人口は昭和60年をピークに減少傾向。平成27年の総人口は昭和30年（約60年前）と同水準。



出典) 国勢調査、住民基本台帳人口

## 2) 十勝管内の年齢3区分別人口割合の推移

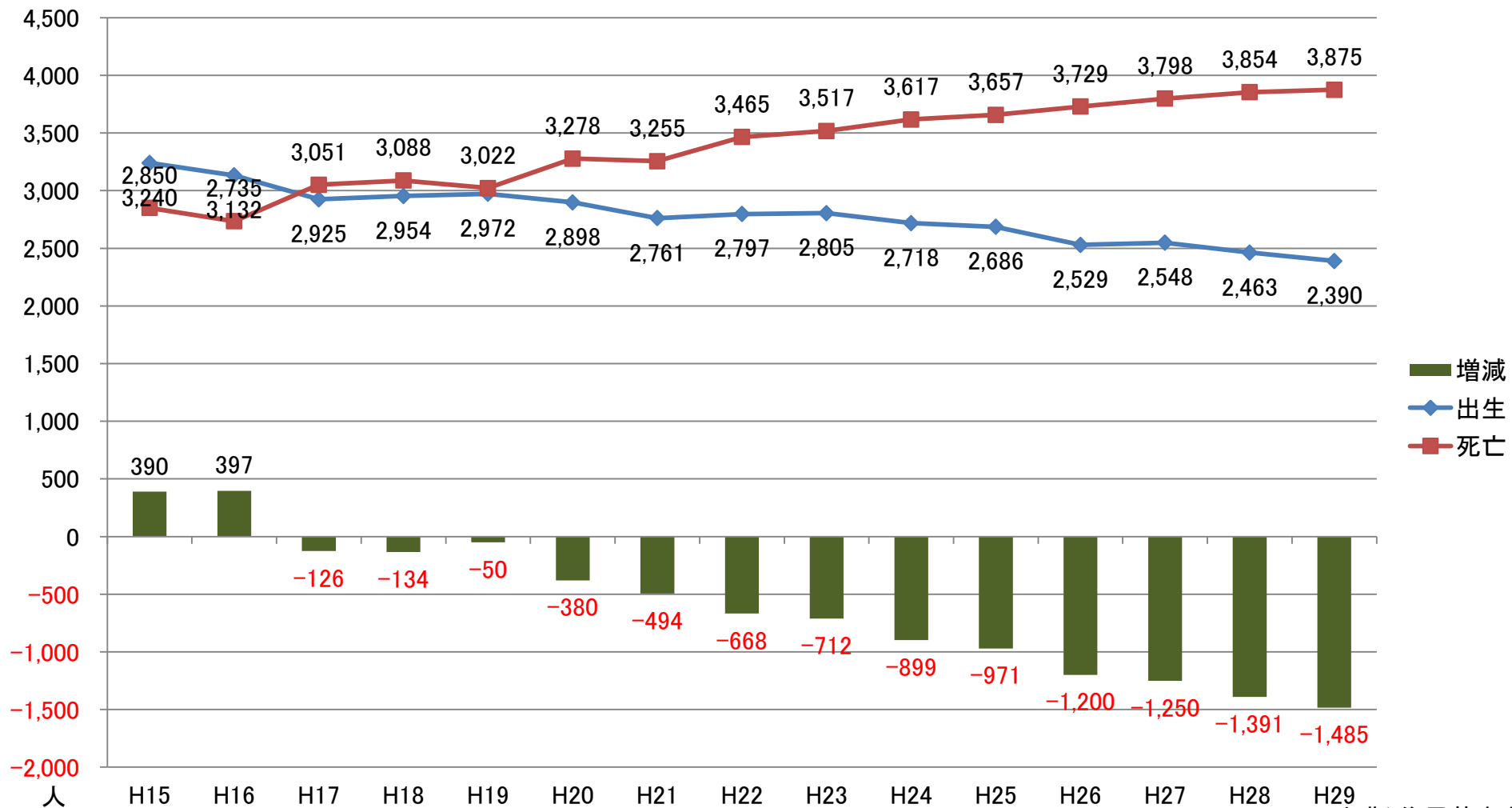
昭和30年と平成27年を比較すると、管内の高齢化率は3.7%から28.8%に上昇、年少人口は3分の1に減少。



出典)国勢調査

### 3) 十勝管内の自然動態

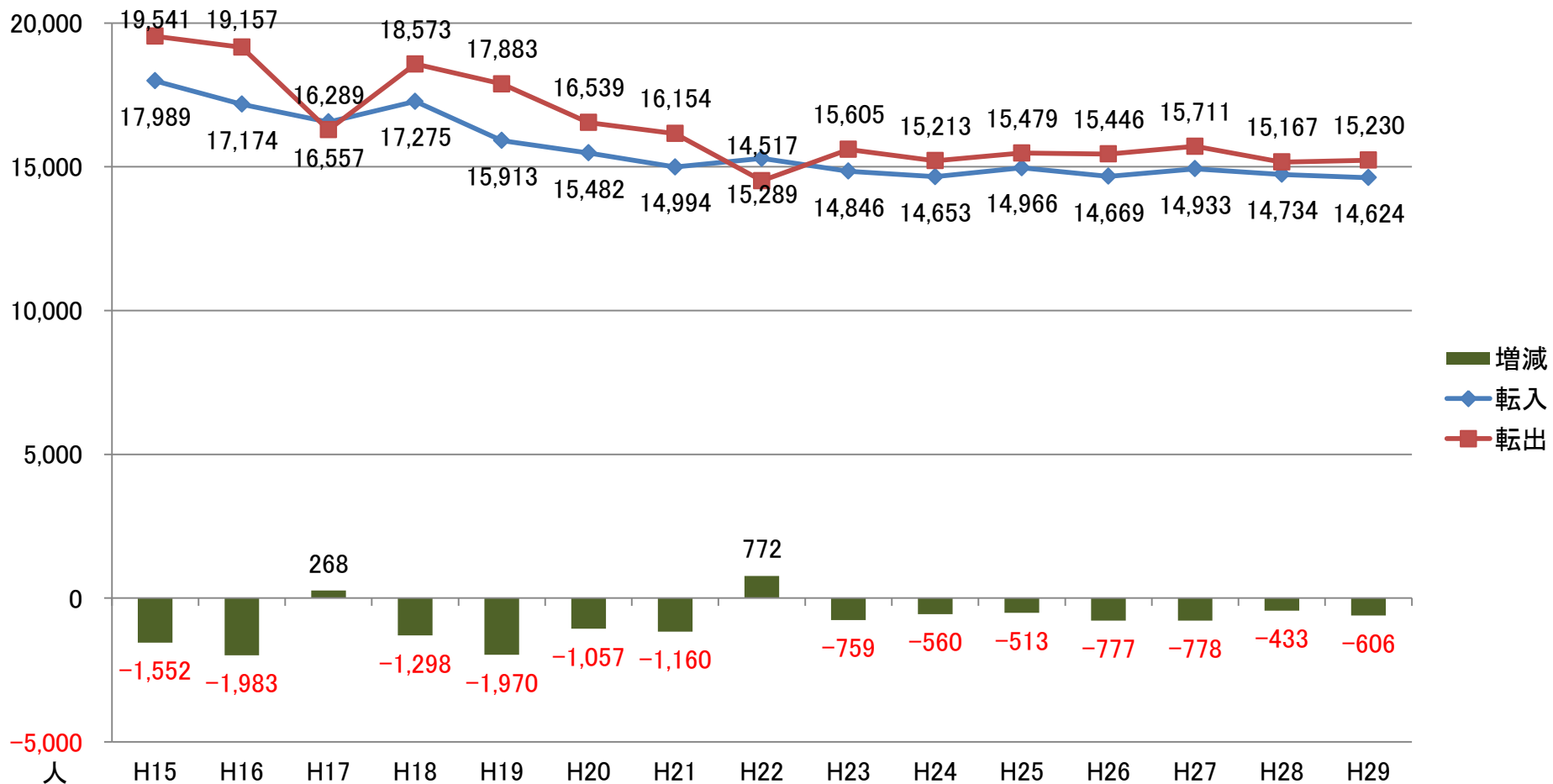
平成17年以降、死亡数が出生数を上回り、平成20年以降は自然動態のマイナス幅が拡大傾向にある。近年、死亡数の伸びは鈍化の傾向が見られるが、出生数の減少幅は年により変動がある。



出典) 住民基本台帳人口

## 4) 十勝管内の社会動態

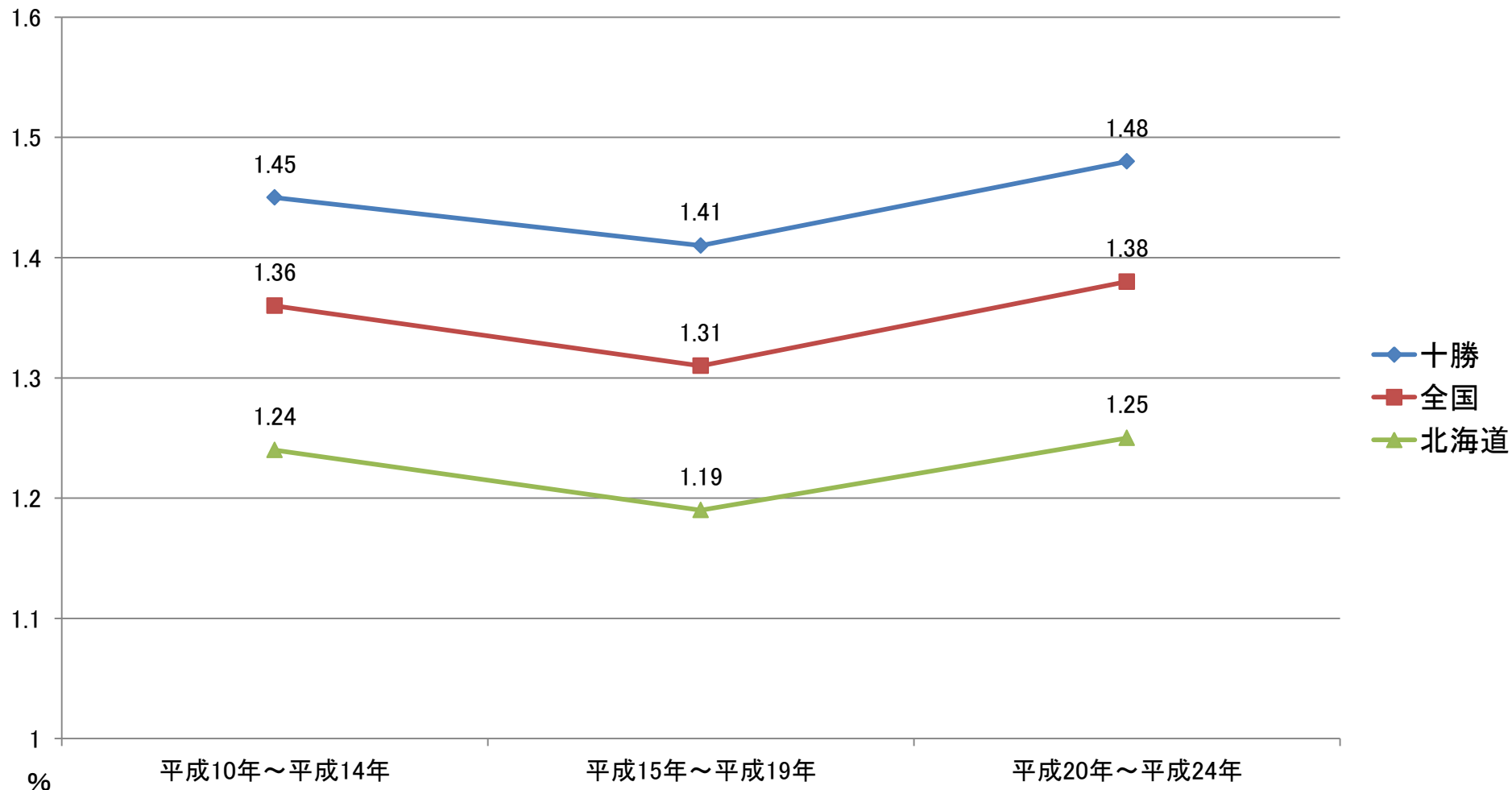
平成17年と平成22年を除き、転出者数が転入者数を上回っている。平成23年以降、転入者数は1万4千人後半、転出者数は1万5千人前半で推移しており、年平均400～700人台の転出超過となっている。



出典) 住民基本台帳人口

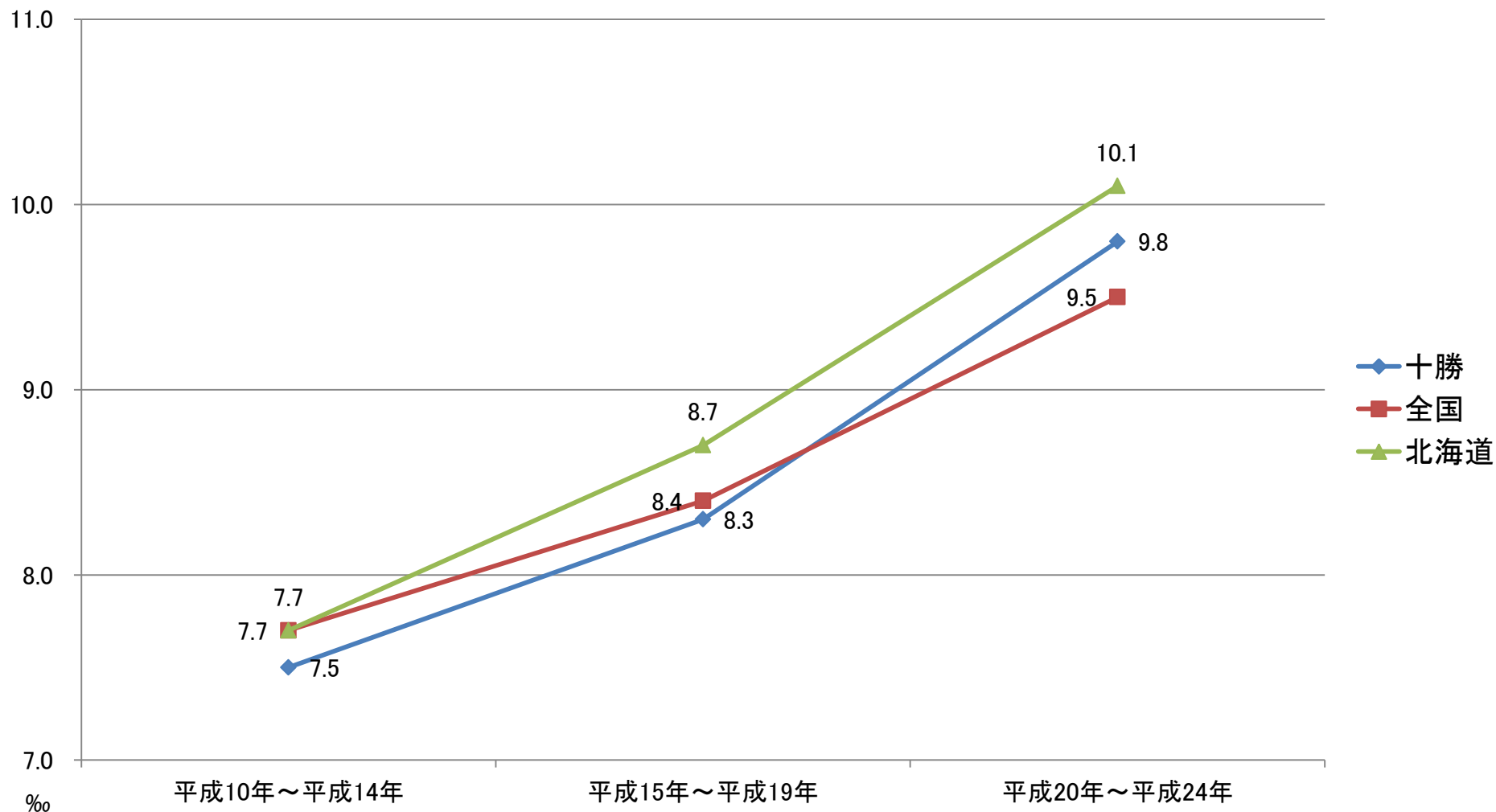
## 5) 十勝管内の合計特殊出生率の推移 (H10~H24)

十勝の合計特殊出生率は、全国、北海道よりも高い。また、年による変動は同じ傾向にある。



## 6) 十勝管内の死亡率（人口千対）の推移（H10～H24）

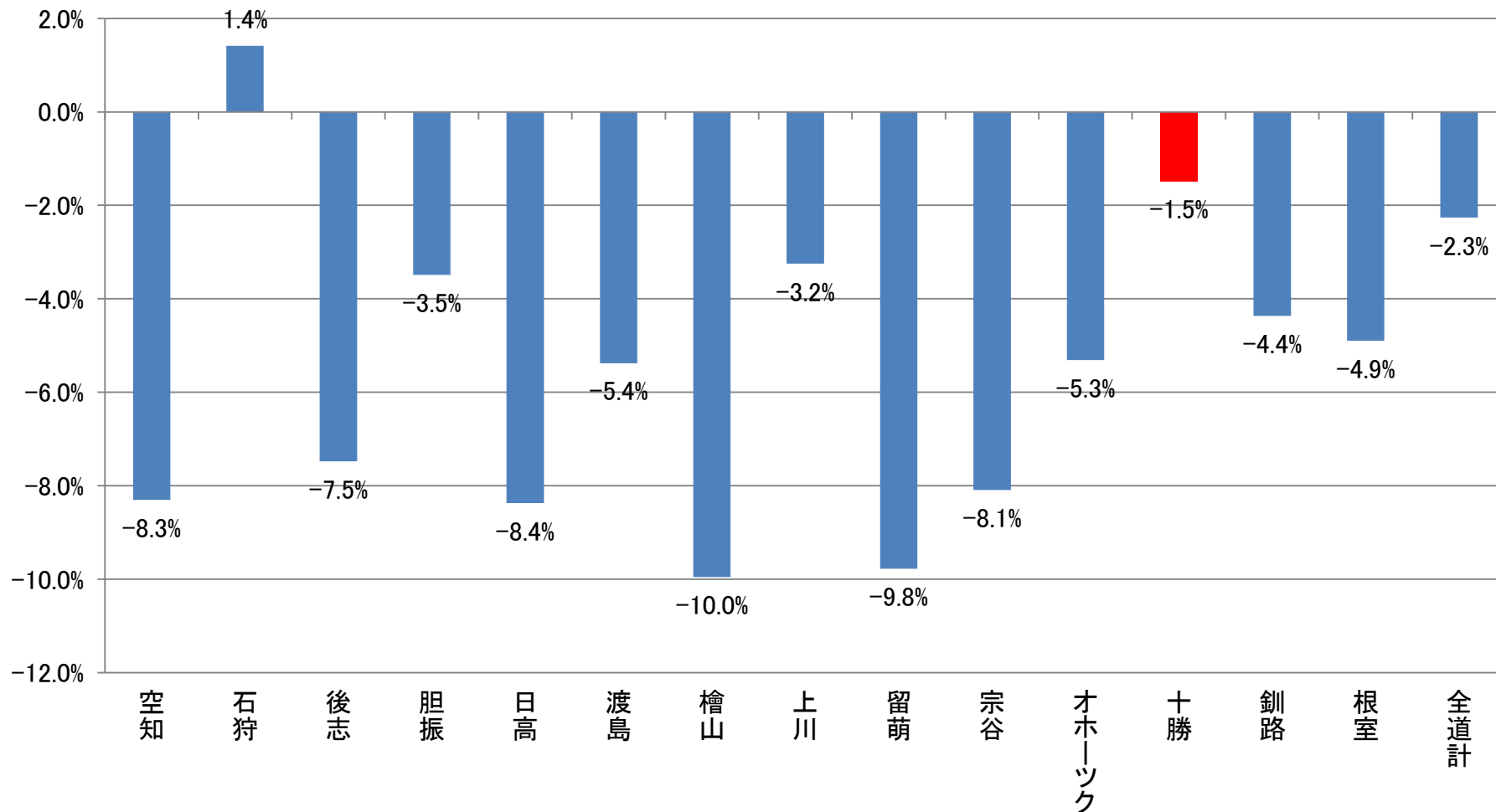
十勝の死亡率（人口千対）は、北海道に比べ低く推移している。平成20年以降、全国より高くなった。



出典)人口動態調査

# 7) 人口変化率（H22→H27）の道内比較

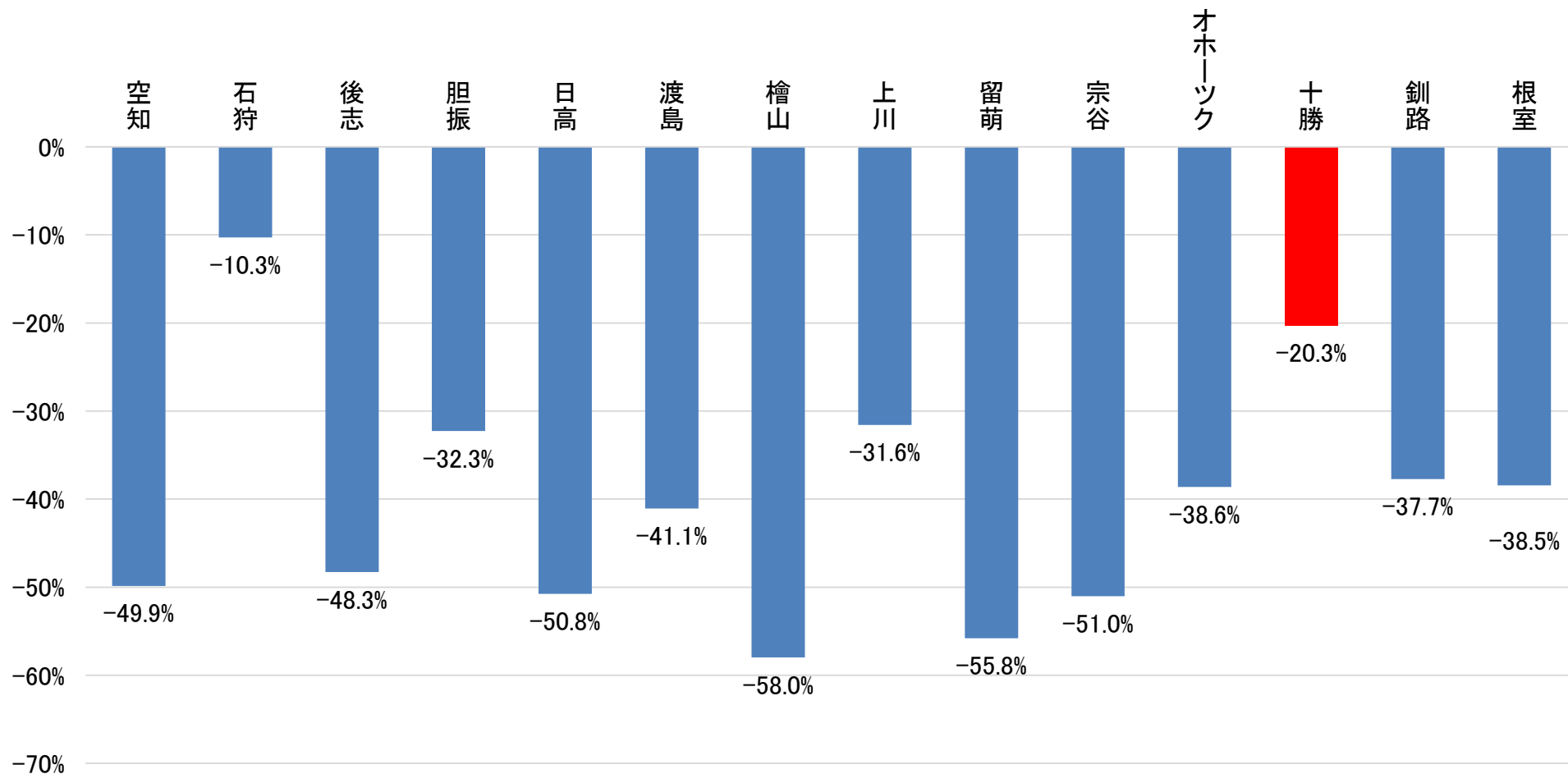
石狩を除き、道内各地の人口が減少している中、十勝の人口減少率は最も低い。





## 8) 将来推計による人口減少率（2015→2045）の道内比較

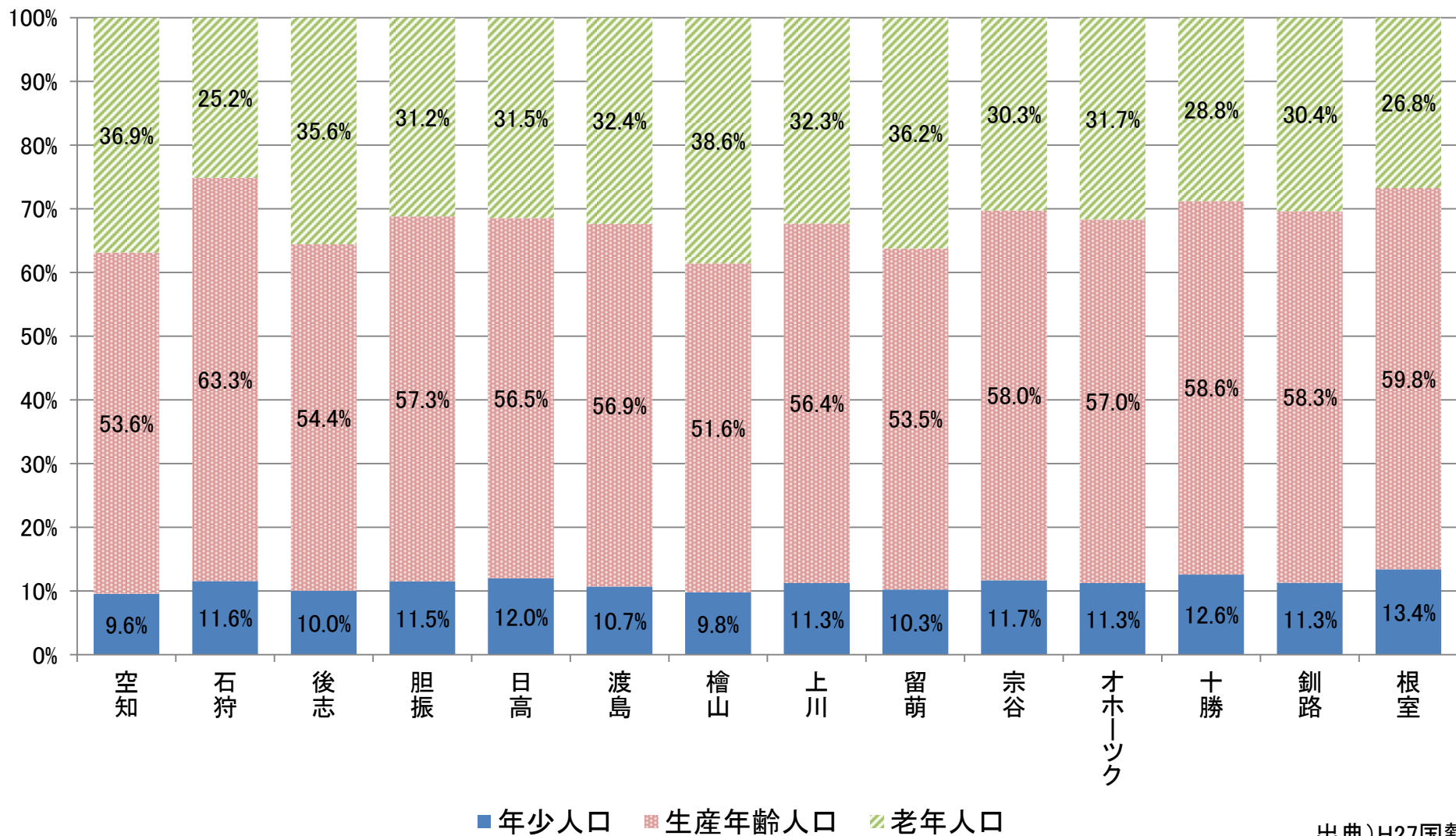
将来推計では、2045年の十勝の人口減少率は石狩の次に低い。



出典) 国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口

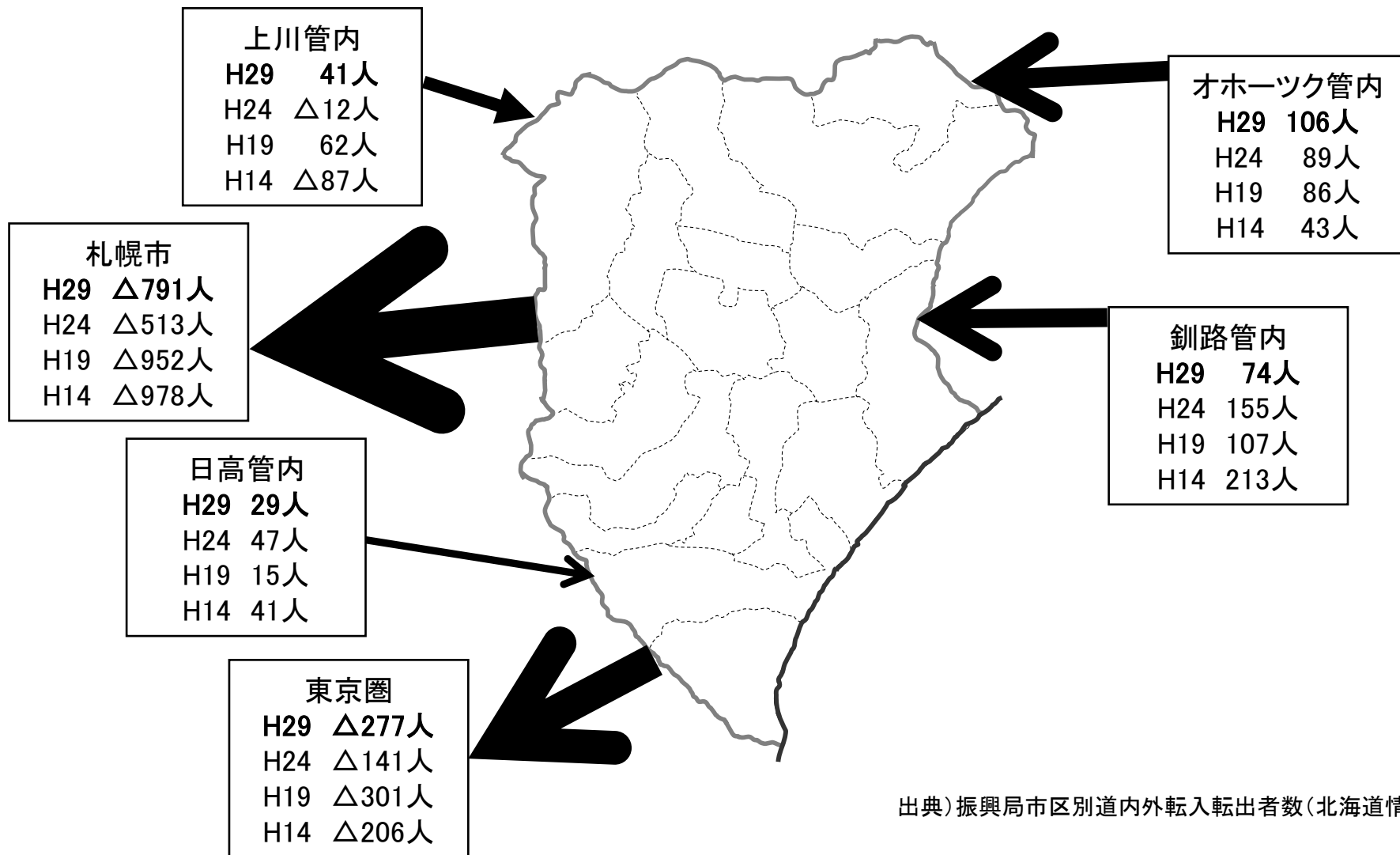
# 9) 年齢3区分別人口の道内比較

十勝の年少人口割合は道内2位、生産年齢人口は道内3位。高齢化率は道内で3番目に低い。



# 10) 十勝圏域の人口移動状況

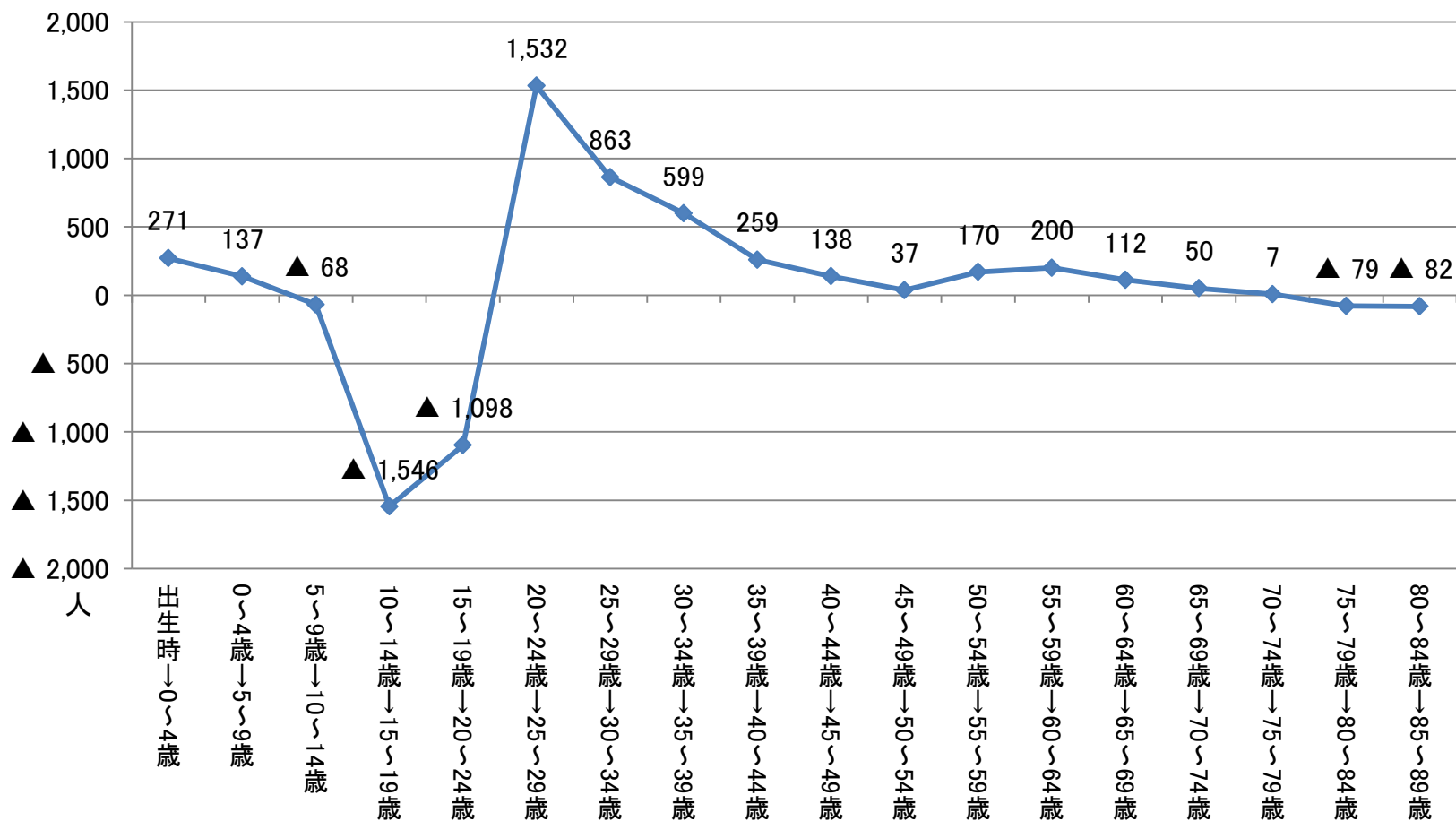
東京圏へは継続して流出しているが、札幌市への流出は縮小傾向にある。  
釧路管内からの流入は縮小。過去、流出していた上川管内は流入に転じている。



出典) 振興局市区別道内外転入転出者数(北海道情報統計局)

# 11) 十勝管内の年齢階層別の移動状況 (H22→H27)

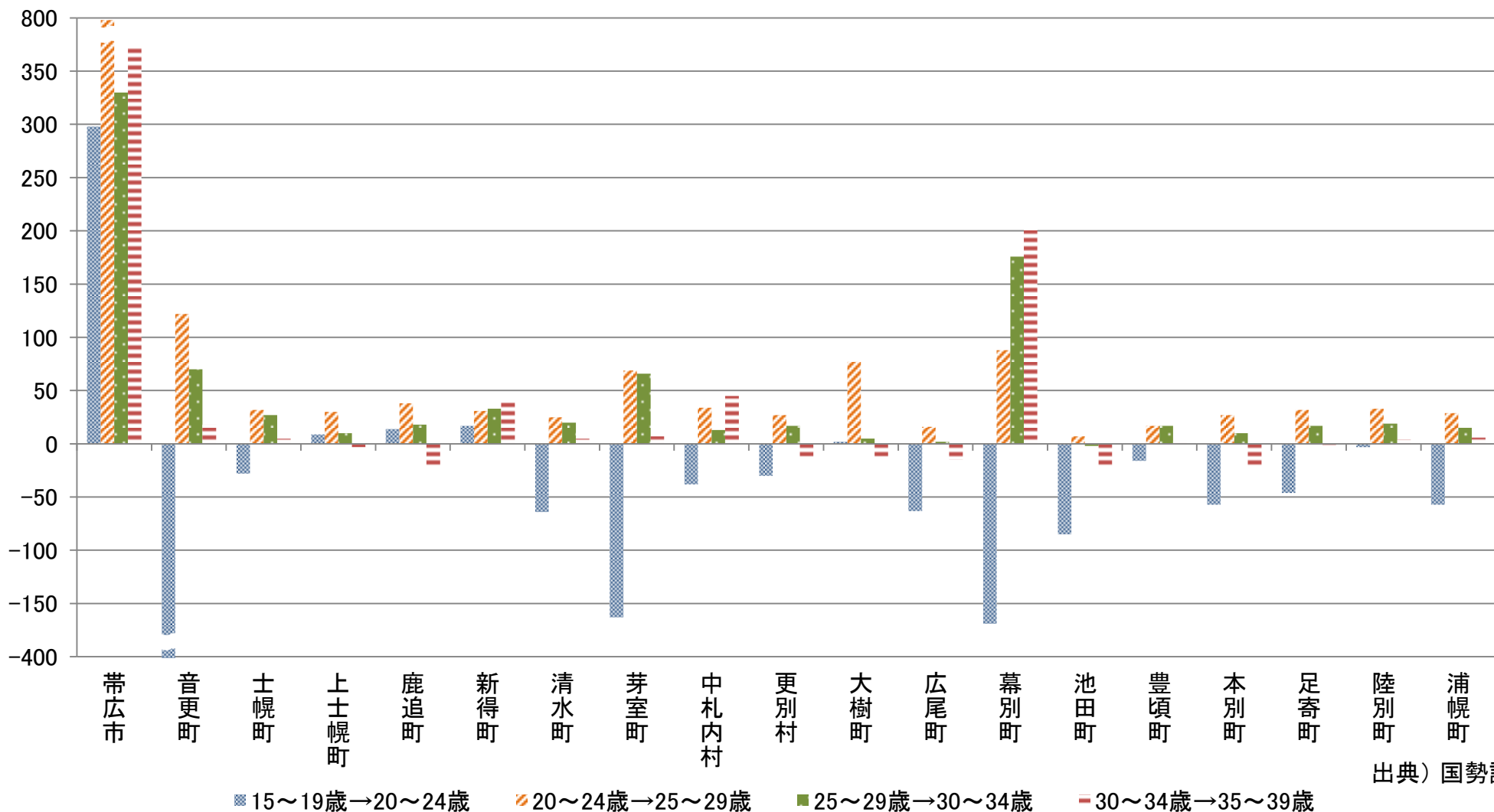
転出入の大幅な動きは10～20代で見られる。20代後半で転入超過のピークを迎え、70代後半まで続く。



注)「第4-2表 現住市区町村による5年前の常住市区町村,年齢(5歳階級),男女別人口(転入)－市区町村」に掲載された人数から、「第5-2表 5年前の常住市区町村による現住市区町村,年齢(5歳階級),男女別人口(転出)－市区町村」に掲載された人数を差し引いたもの。国外、5年前の常住市区町村「不詳」、及び移動状況「不詳」を除く

# 12) 移動状況の管内市町村比較 (H22→H27)

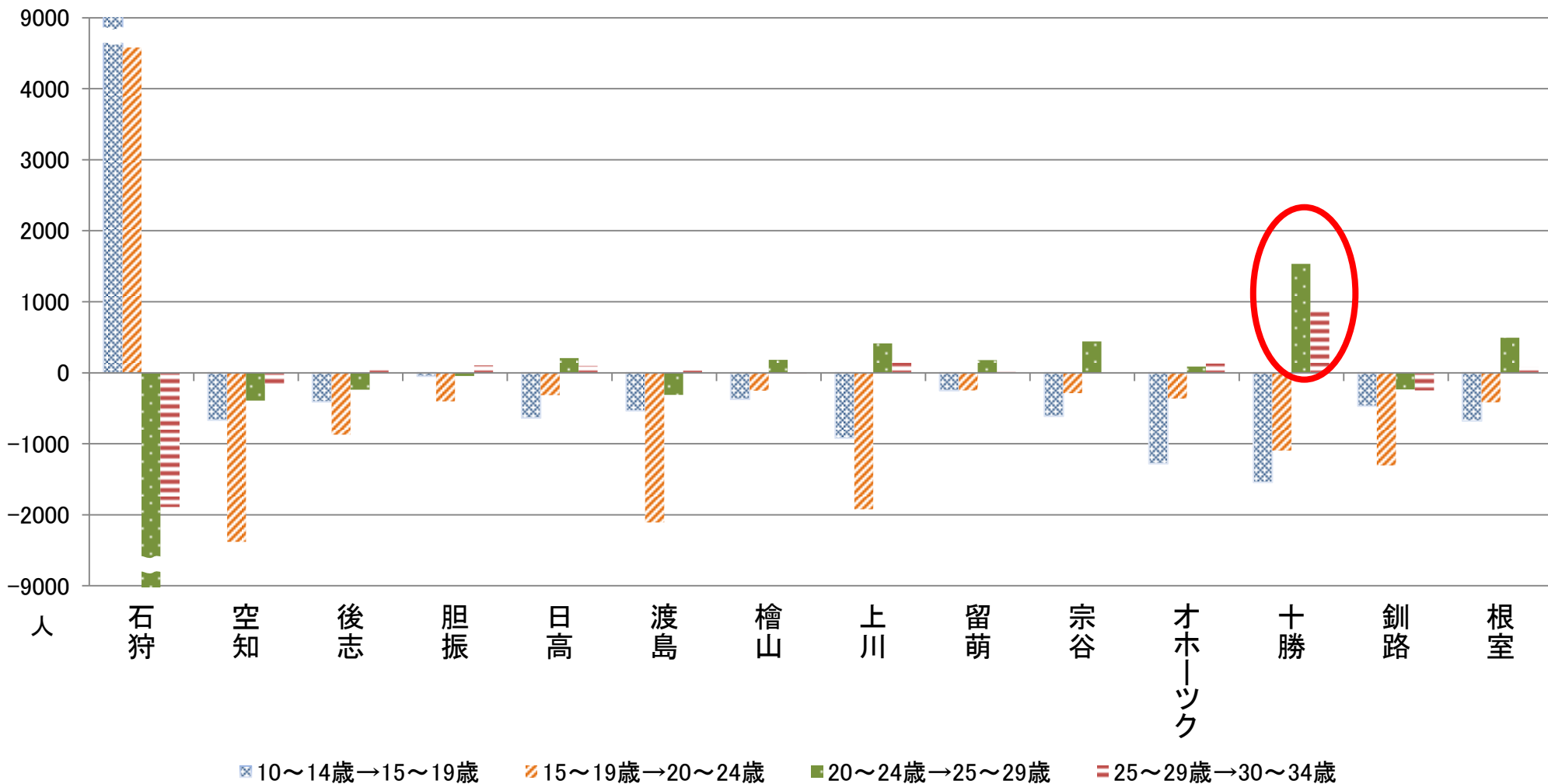
管内の多くの町村で、10代から20代前半までは転出超過、20代後半から転入超過の傾向にある。



出典) 国勢調査

# 13) 移動状況の道内比較 (H22→H27)

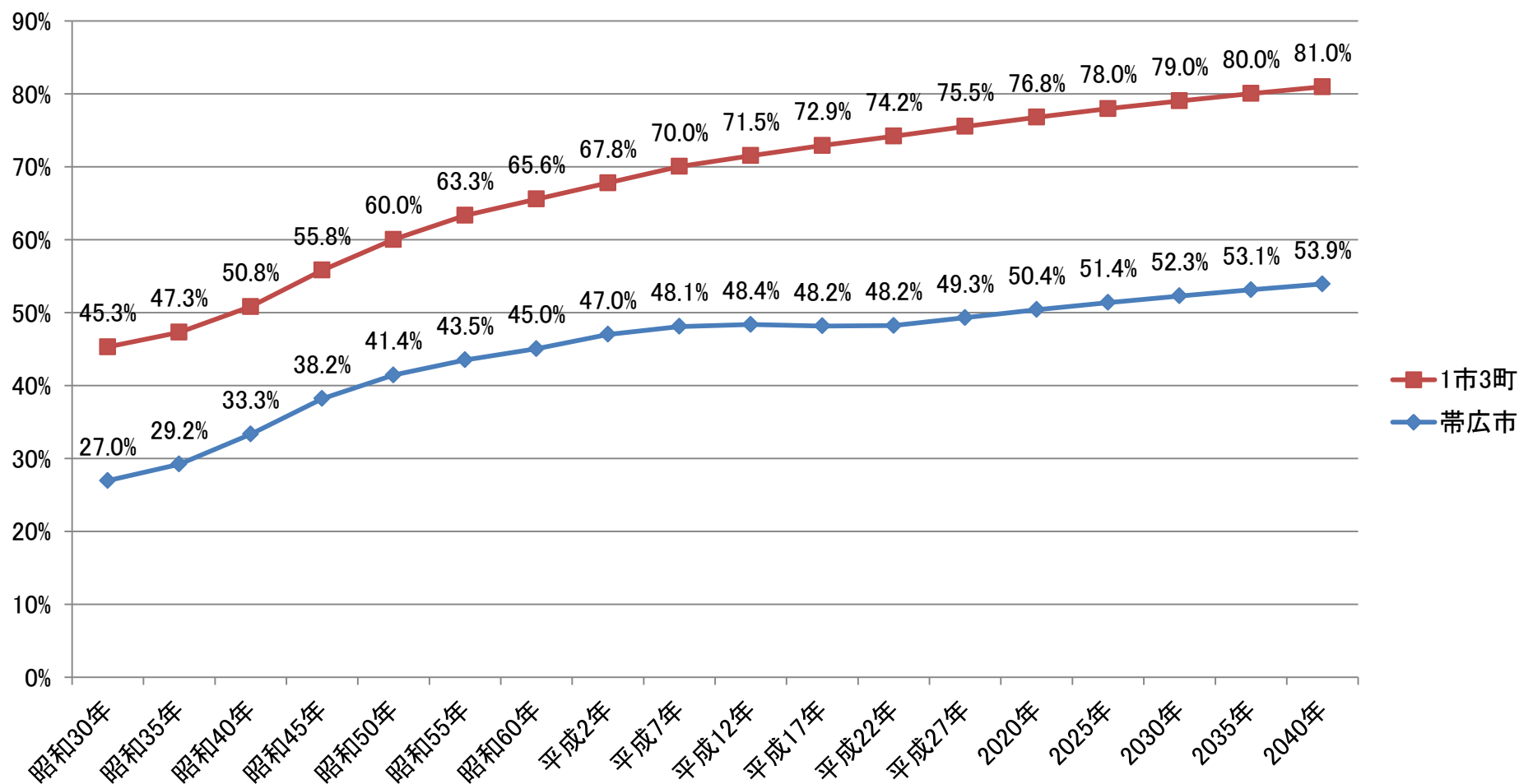
石狩以外の全ての地域は10代の転出が超過している。20代の転入は十勝が最も多い。



出典) 国勢調査

# 14) 管内に占める帯広圏の人口割合の推移

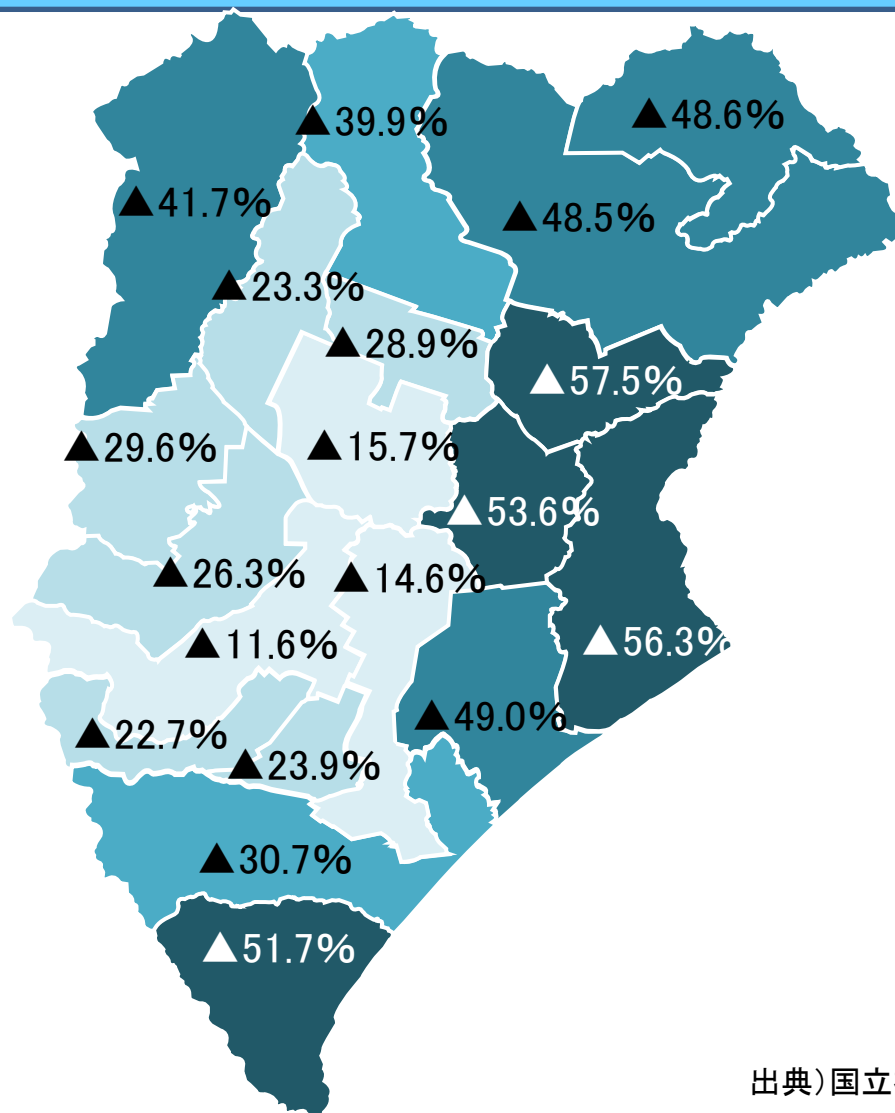
管内人口に占める帯広圏1市3町の比率は、昭和30年の45.3%から平成27年の75.5%まで上昇。将来推計によると、2035年以降、80%以上を占めるとの予測。



出典) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口

# 15) 将来推計による管内の人口減少率（2015→2045）

2045年には、管内の半数近くの自治体が人口減少率50%前後と推計。



出典) 国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口